

ごあいさつ

平素より京阪電車をご利用いただき、誠にありがとうございます。
当社は、安全で安心な旅客輸送サービスの提供を最大の使命として
おります。安全管理規程に基づき、社長である私自らが先頭に立ち、現
場の社員一人ひとりに至るまで、一丸となって安全の確保に取り組ん
でおります。この度、2026年度の安全報告書を公表するにあたり、昨
年度の取り組みと今後の計画についてご報告させていただきます。



代表取締役社長

井上 欣也

昨年度は、継続的な安全目標として「責任事故ゼロ・インシデントゼロ」を掲げ、ハード・ソフトの両面から安全性の向上に取り組みました。沿線の少子高齢化に伴うお客さまの減少という従来からの課題に加え、激甚化する自然災害のリスクやサイバー攻撃など、鉄道を取り巻く事業環境は厳しさを増しています。こうしたなか、安全対策の原資を確実に確保し、持続可能な鉄道輸送サービスを維持するため、2025年10月に運賃改定を実施いたしました。この改定による収入を原資として、ハード対策では、宇治川に続く木津川橋脚の補強工事を推進いたしました。また、今後高い確率で発生が予測されている南海トラフ巨大地震等に備え、高架橋の耐震補強を加速させるとともに、淀車庫の耐震補強を実施しました。さらに、祇園四条駅への可動式ホーム柵の設置による安全性向上や、犯罪抑止を目的とした京阪本線全車両への車内防犯カメラ設置(2028年度完了予定)など、お客さまに安心してご利用いただける環境整備に努めています。一方、ソフト対策としては、発災時の対応力を高めるブラインド形式のBCP訓練を継続実施したほか、関連法令の改正に対応した鉄道システムのサイバーセキュリティ体制の強化を図りました。加えて、2025年12月に竣工した「安全継創館」を活用した社員への教育を開始しております。こうした一連の取り組みの結果、昨年度の安全目標である「責任事故ゼロ・インシデントゼロ」を達成いたしました。「2025大阪・関西万博」の開催期間中には、不慣れな国内外のお客さまが集中するなか、安全・安心な輸送の提供を通じて、皆さまの快適な移動と万博の成功に貢献できたものと考えております。

今年度は、可動式ホーム柵を含むバリアフリー設備の継続的な整備に加え、車両・変電所の更新やGoA2.5自動運転の導入に向けた検討を開始いたします。また、「安全継創館」を活用した教育で鉄道従事員としての使命感を再認識し、組織全体の安全文化を次代へつなぐことで、さらなる安全性の向上を追求してまいります。

本報告書は、鉄道事業法第19条の4に基づき、当社における安全への取り組みを皆さまにご理解いただくために作成したものです。本報告書をご一読いただき、忌憚のないご意見や感想をお聞かせいただければ幸いです。